

**「切れ目ない支援部会」での取組を通して
～地域との連携、そして地域貢献へ～**

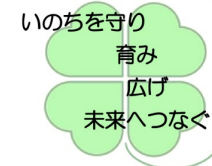
発 表 者 神奈川県立えびな支援学校 校長 林 麻佐美



学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
神奈川県海老名市	239名	平成30年度	9名	3回	0名

学校教育目標

- 一人ひとりに応じた教育を行い、地域生活と将来を見据え、生きる力を育成し、自立と社会参加を促進する。
 - インクルーシブな学校づくり* を推進することにより、共生社会** の実現に貢献する。
- * すべての児童生徒一人ひとりを対象とする学びやすさを追究した学校（学級・授業）づくり
 ** DE & I（Diversity, Equity & Inclusion 多様性、公平性、包摂性）



学校・地域の特徴

- 所在地：神奈川県海老名市(県中央部)
- 人口14万人(増加中)
- 平成28年開校
- 肢体不自由教育部門 知的障害教育部門
- 小・中・高等部
- 近隣4市から児童生徒は通学
- 「地域で豊かに暮らし、働く」ことを目指し、教育活動を展開
- 県立中央農業高等学校と隣接(果樹園、樹木園の跡地)し、開校時から交流を実施



学校運営協議会の概要

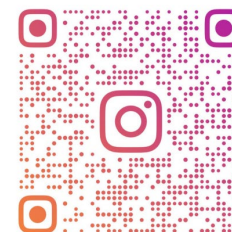
委員の構成	これまでの主な議題例
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学識経験者 ➢ 進路先関係者 ➢ 中央農業高等学校長 ➢ 中新田小学校長 ➢ 地域住民（自治会）代表 ➢ 海老名市社会福祉協議会長 ➢ 海老名市障がい者団体会長 ➢ 保護者代表 ➢ 校長 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ えびな支援学校ランドデザインについて ➢ 学校教育計画（4年間）について ➢ 地域資源の相互活用について ➢ 地域における教育活動の充実について

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- 在学中も卒業後も「地域で豊かに暮らし、働く」ことを目指し、地域資源を活用した教育活動を展開を目指している。
- 特別支援学校における教育活動について、地域の方々に知ってもらうために、さまざまな媒体を活用し、情報発信を行っている。
- 海老名市が「インクルーシブ教育推進市町村」として県から指定されたことを受け、地域にある特別支援学校としてどのような役割を果たせるか今後検討していく必要がある。



- # 共生社会を目指して
- # 地域とつながろう
- # インクルーシブ教育
- # 特別支援学校から発信
- # えびな支援学校

EBINASHIEN



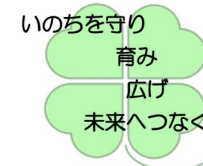
- 1 基本情報・学校概要**
- 2 切れ目ない支援部会の取組**
- 3 取組の成果と今後に向けて**



学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
神奈川県海老名市	239名	平成30年度	9名	3回	0名

学校教育目標

- 一人ひとりに応じた教育を行い、地域生活と将来を見据え、生きる力を育成し、自立と社会参加を促進する。
 - インクルーシブな学校づくり* を推進することにより、共生社会** の実現に貢献する。
- * すべての児童生徒一人ひとりを対象とする学びやすさを追究した学校（学級・授業）づくり
** DE & I（Diversity, Equity & Inclusion 多様性、公平性、包摂性）



学校・地域の特徴

- 所在地：神奈川県海老名市(県中央部)
- 人口14万人(増加中)
- 平成28年開校
- 肢体不自由教育部門 知的障害教育部門
- 小・中・高等部
- 近隣4市から児童生徒は通学
- 「地域で豊かに暮らし、働く」ことを目指し、教育活動を展開
- 県立中央農業高等学校と隣接(果樹園、樹木園の跡地)し、開校時から交流を実施



学校運営協議会の概要

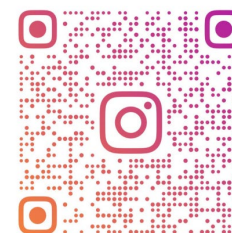
委員の構成	これまでの主な議題例
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学識経験者 ➢ 進路先関係者 ➢ 中央農業高等学校長 ➢ 中新田小学校長 ➢ 地域住民（自治会）代表 ➢ 海老名市社会福祉協議会長 ➢ 海老名市障がい者団体会長 ➢ 保護者代表 ➢ 校長 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ えびな支援学校ランドデザインについて ➢ 学校教育計画（4年間）について ➢ 地域資源の相互活用について ➢ 地域における教育活動の充実について

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- 在学中も卒業後も「地域で豊かに暮らし、働く」ことを目指し、地域資源を活用した教育活動を展開を目指している。
- 特別支援学校における教育活動について、地域の方々知ってもらうために、さまざまな媒体を活用し、情報発信を行っている。
- 海老名市が「インクルーシブ教育推進市町村」として県から指定されたことを受け、地域にある特別支援学校としてどのような役割を果たせるか今後検討していく必要がある。



- # 共生社会を目指して
- # 地域とつながろう
- # インクルーシブ教育
- # 特別支援学校から発信
- # えびな支援学校

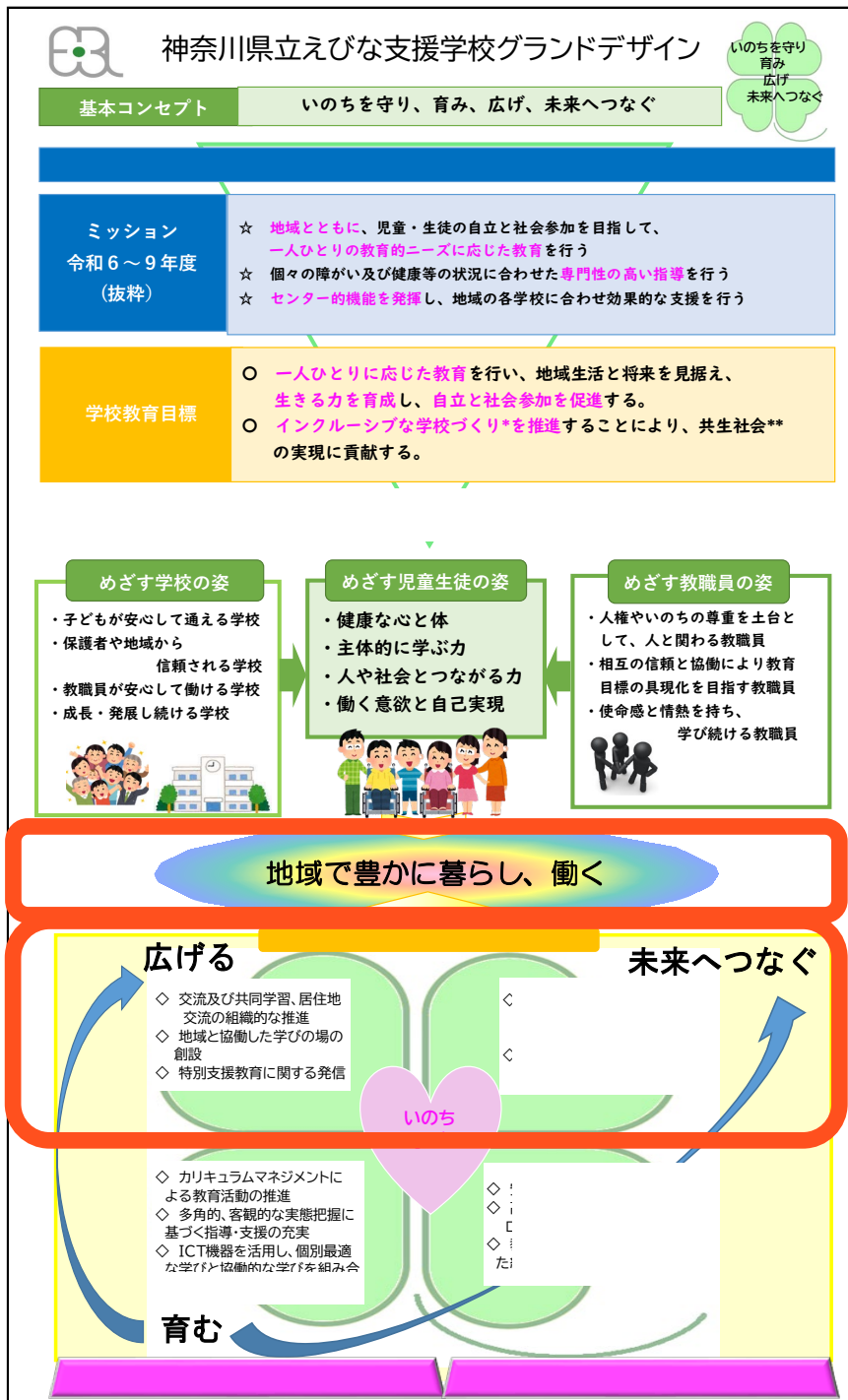
EBINASHIEN



地域とともに



えびな支援学校キャラクター
“クローバーちゃん”



地域資源の活用

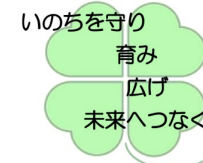
いのちを守り
育み
広げ
未来へつなぐ



学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
神奈川県海老名市	239名	平成30年度	9名	3回	0名

学校教育目標

- 一人ひとりに応じた教育を行い、地域生活と将来を見据え、生きる力を育成し、自立と社会参加を促進する。
 - インクルーシブな学校づくり* を推進することにより、共生社会** の実現に貢献する。
- * すべての児童生徒一人ひとりを対象とする学びやすさを追究した学校（学級・授業）づくり
 ** DE & I（Diversity, Equity & Inclusion 多様性、公平性、包摂性）



学校・地域の特徴

- 所在地：神奈川県海老名市(県中央部)
- 人口14万人(増加中)
- 平成28年開校
- 肢体不自由教育部門 知的障害教育部門
- 小・中・高等部
- 近隣4市から児童生徒は通学
- 「地域で豊かに暮らし、働く」ことを目指し、教育活動を展開
- 県立中央農業高等学校と隣接(果樹園、樹木園の跡地)し、開校時から交流を実施



学校運営協議会の概要

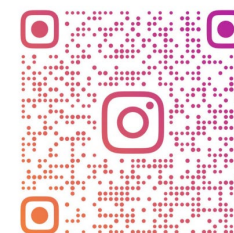
委員の構成	これまでの主な議題例
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学識経験者 ➢ 進路先関係者 ➢ 中央農業高等学校長 ➢ 中新田小学校長 ➢ 地域住民（自治会）代表 ➢ 海老名市社会福祉協議会長 ➢ 海老名市障がい者団体会長 ➢ 保護者代表 ➢ 校長 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ えびな支援学校ランドデザインについて ➢ 学校教育計画（4年間）について ➢ 地域資源の相互活用について ➢ 地域における教育活動の充実について

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- 在学中も卒業後も「地域で豊かに暮らし、働く」ことを目指し、地域資源を活用した教育活動を展開を目指している。
- 特別支援学校における教育活動について、地域の方々に知ってもらうために、さまざまな媒体を活用し、情報発信を行っている。
- 海老名市が「インクルーシブ教育推進市町村」として県から指定されたことを受け、地域にある特別支援学校としてどのような役割を果たせるか今後検討していく必要がある。



- # 共生社会を目指して
- # 地域とつながろう
- # インクルーシブ教育
- # 特別支援学校から発信
- # えびな支援学校

EBINASHIEN



- (1) 目的：キャリア教育の推進と共生社会の実現を目指し、
中央農業高校との交流及び共同学習を進める支援を行う。
地域との連携を深め地域資源を活用し、教育を充実させると
ともに**地域活動に貢献**する支援を行う。
- (2) メンバー：
教頭、総括教諭、小中高等部担当者
中央農業高等学校関係者、学校運営協議会委員
- (3) 活動：
交流及び共同学習の内容について協議し、児童生徒の活動
につなげる



令和5年度の中央農業高等学校との交流及び共同学習

学部・学年	中央農業高等学校	期間	内容
全学部		通年	校地内散策
肢・小学部	畜産科学科 課題研究	5月～ (月1回程度)	お米と枝豆の栽培、高校生徒の交流（ハッピータイム） 田んぼ体験、動物とのふれあい、販売用米のラベル貼り、 稲刈り、トラクター乗車
知・小学部		通年	夏野菜の栽培、収穫体験 サツマイモの掘り起こし
知・中学部	畜産科学科	10月 毎週水曜日	動物見学、餌やり体験 作業学習（サツマイモの栽培）
高等部	畜産科学科 課題研究	年8回	牛舎等見学、バケツ稲の栽培、課題研究アンケート、搾 乳・授乳体験、やきもの皿制作、絵付け体験、研究報告、 定食づくり
高等部	農業総合科	年5回	土づくり、苗植え、トウモロコシ収穫、ポップコーンづくり、 寄せ植え、植木鉢づくり、えつけ体験
高等部	園芸科学科	3月・4月	高等部卒業生用コサージュ制作講師 卒業式・入学式の壇上装飾の鉢花
教職員		通年 随時	教職員向け生産物販売 巡回相談、校内相談
資源	畜産科学科	通年	給食の残菜活用

2 切れ目ない支援部会の取組 事例①



令和5年度の中央農業高等学校との交流及び共同学習

学部・学年	中央農業高等学校	期間	内容
肢・小学部	畜産科学科 課題研究	5月～ (月1回程度)	お米と枝豆の栽培、高校生徒の交流（ハッピータイム） 田んぼ体験、動物とのふれあい、販売用米のラベル貼り、 稲刈り、トラクター乗車





令和5年度の中央農業高等学校との交流及び共同学習

学部・学年	中央農業高等学校	期間	内容
肢・小学部	畜産科学科 課題研究	5月～ (月1回程度)	お米と枝豆の栽培、高校生徒の交流（ハッピータイム） 田んぼ体験、動物とのふれあい、販売用米のラベル貼り、 稲刈り、トラクター乗車





令和5年度の中央農業高等学校との交流及び共同学習

学部・学年	中央農業高等学校	期間	内容
肢・小学部	畜産科学科 課題研究	5月～ (月1回程度)	お米と枝豆の栽培、高校生徒の交流（ハッピータイム） 田んぼ体験、動物とのふれあい、販売用米のラベル貼り、 稲刈り、トラクター乗車





令和5年度の中央農業高等学校との交流及び共同学習

学部・学年	中央農業高等学校	期間	内容
高等部	畜産科学科 課題研究	年8回	牛舎等見学、バケツ稲の栽培、課題研究アンケート、搾乳・授乳体験、やきもの皿制作、絵付け体験、研究報告、定食づくり





令和5年度の中央農業高等学校との交流及び共同学習

学部・学年	中央農業高等学校	期間	内容
高等部	畜産科学科 課題研究	年8回	牛舎等見学、バケツ稲の栽培、課題研究アンケート、搾乳・授乳体験、やきもの皿制作、絵付け体験、研究報告、定食づくり





令和5年度の中央農業高等学校との交流及び共同学習

学部・学年	中央農業高等学校	期間	内容
全学部		通年	校地内散策
肢・小学部	畜産科学科 課題研究	5月～	お米と枝豆の栽培、高校生徒の交流（ハッピータイム） 米のラベル貼り、
知・小学部			の掘り起こし
知・中学部	畜産科学科	10月 毎週水曜日	動物見学、餌やり体験 作業学習（サツマイモの栽培）
高等部	畜産科学科 課題研究	年8回	牛舎等見学、バケツ稲の栽培、課題研究アンケート、搾 、研究報告、
高等部	農業総合科		ーンづくり、
高等部	園芸科学科	3月・4月	高等部卒業生用コサージュ制作講師 卒業式・入学式の壇上装飾の鉢花
教職員			
資源	畜産科学科		

体験活動 異年齢交流

同年代交流 ⇒ 学び合い

相互の資源の活用



学校運営協議会
切れ目ない支援部会

交流や協議の積み重ね

いのちを守り
育み
広げ
未来へつなぐ

両校教職員間の理解が深まる

- ・ 中央農業「福祉と農業」の授業をえびな支援学校に来校し実施
- ・ 田畑や動物などの資源を生かした教育活動

活動の幅の広がり

児童生徒、教職員の変容

もっと
地域に

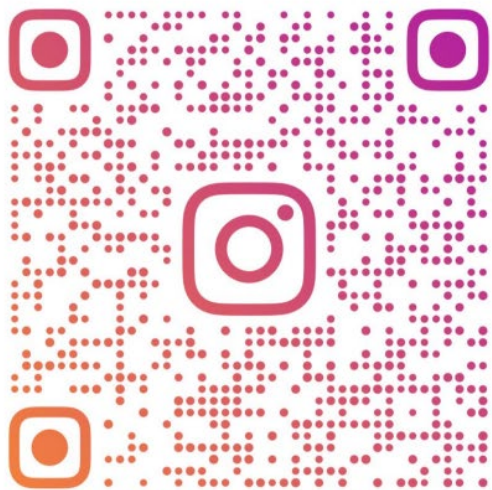
地域貢献

地域の一員としての役割を積極的に果たす

共生社会の実現

地域で豊かに暮らし、働く

ご清聴ありがとうございました



EBINASHIEN

- # 共生社会を目指して
- # 地域とつながろう
- # インクルーシブ教育
- # 特別支援学校から発信
- # えびな支援学校

